

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程用)

教科	社会	学年	2	年	時間数	105	時間
----	----	----	---	---	-----	-----	----

教科書名	新しい社会 地理、新しい社会 歴史	出版社名	東京書籍
------	-------------------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	知	思	主	
一 学 期	4	第2章 日本の地域的特色と地域区分	1 地形から見た日本の特色	◎	◎	○	授業の概要 地理分野では日本について学習します。多面的な視点から地域的特色を把握し、地域間の結びつきや、国および地域が抱える課題について学習します。また、世界から見た日本のすがたについても学習します。 歴史分野では近世を学習します。日本の歴史を中心として、日本と諸外国との関係や、歴史的な出来事を広い視野に立って学習します。
			2 気候から見た日本の特色	◎	○	○	
	3 自然災害と防災・減災への取り組み	◎	◎	○			
	4 人口から見た日本の特色 5 資源・エネルギーから見た日本の特色	◎	◎	○			
	6 産業から見た日本の特色 7 交通・通信から見た日本の特色	◎	○	◎			
	5	中間考査(5/14～5/15)		◎	◎		
	6	第4章 近世の日本	1 中世ヨーロッパとイスラム世界 2 ルネサンスと宗教改革 3 ヨーロッパ世界の拡大 4 ヨーロッパ人との出会い	◎	○		
6	1節 ヨーロッパ人との出会い全国統一	5 織田信長・豊臣秀吉による統一事業 6 兵農分離と秀吉の対外政策 7 桃山文化	◎	○			
		2節 江戸幕府の成立と対外政策	1 江戸時代の成立 2 ささまざまな身分と暮らし 3 貿易の振興から鎖国へ 4 鎖国下の対外関係 5 琉球王国やアイヌ民族との関係	◎	◎	○	
7	3節 産業の発達と幕府政治の動き	1 農業や諸産業の発展 2 都市の繁栄と交通路の整備 3 幕府政治の安定と元禄文化	◎	◎	○	学習の到達目標	
		4 享保の改革と社会の変化 5 田沼意次の政治と寛政の改革 6 新しい学問と化政文化 7 外国船の出現と天保の改革	◎	◎	○		
7	3節 日本と諸地域	1 九州地方をながめて 2 自然環境に適応する人々の工夫	◎	◎		・世界地図や日本地図を活用し、世界や日本の様々な地域的特色を理解することができる。 ・世界や日本の様々な自然や農業・資源などについて理解することができる。 ・歴史に関する興味・関心を高め、日本の近世の歴史を理解することができる。 ・歴史上の出来事や動きについて、その背景や原因、問題点を論理的に考えることができる。	
		3 自然の制約の克服と利用 4 持続可能な社会をつくる	◎	◎	◎		
8	夏季休業日(7/20～8/25)						
二 学 期	9	2節 中国・四国地方	1 中国・四国地方をながめて 2 交通網の整備と人や物の移動の変化	◎	○	◎	評価の観点 知識・技能 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べとめる技能を身に付けている。
			3 交通網が支える産業とその変化 4 活用される交通・通信網	◎	◎	○	
	3節 近畿地方	1 近畿地方をながめて 2 大都市圏の形成と都市の産業	◎	○	◎		
	4節 中部地方	1 中部地方をながめて 2 特色ある東海の産業	◎	○	◎		
	中間考査(10/10～10/11)		◎	◎			
10	第5章 開国と近代日本の歩み	1 イギリスとアメリカの革命 2 フランス革命	◎	◎	○	思考・判断・表現	
1節 欧米における近代化の進展	3 ヨーロッパにおける国民意識の高まり 4 ロシアの拡大とアメリカの発展 5 産業革命と資本主義	◎	◎	○			
2節 欧米の進出と日本の開国	1 欧米のアジア侵略 2 開国と不平等条約	◎	◎				
11	5節 関東地方	3 開国後の政治と経済 4 江戸幕府の滅亡	◎	◎		社会的現象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養っている。	
		1 関東地方をながめて 2 世界と結び付く東京	◎	○	◎		
12	6節 東北地方	3 特色ある中央高地の産業 4 特色ある北陸の産業	◎	◎	◎	主体的に学習に取り組む態度	
		1 東北地方をながめて 2 祭りや年中行事の伝統とその変化	◎	○	◎		
12	3 伝統工芸品の生産・販売とその変化 4 過去の継承と未来に向けた社会づくり		◎	◎	◎	社会的現象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。	
			◎	◎	◎		
冬季	冬季休業日(12/21～1/7)						
三 学 期	1	7節 北海道地方	1 北海道地方をながめて 2 自然の制約に適応する人々の工夫	◎	○	◎	評価方法 学習の状況は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」「授業態度・取り組み方」「定期考査」「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の平均とし、5段階法でも評定します。
			3 自然の制約や社会の変化を乗り越える 4 自然の特色を生かした産業	◎	◎	◎	
	2	第4章 地域の在り方	1 身近な地域の課題を見つける	◎		◎	
			2 課題を調査する	◎		◎	
	3 要因を考察する	◎	◎				
4 解決策を構想する	◎	◎	○				
3	学年末考査3年(2/21～2/28) 学年末考査2年(2/25～2/28)		◎	◎		備考	
		5 地域の将来像を提案する	◎	◎	◎		

令和6年度
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程用)

教科	社会	学年	3	年	時間数	140	時間
----	----	----	---	---	-----	-----	----

教科書名	新しい社会歴史、中学社会公民的分野	出版社名	東京書籍、日本文教出版
------	-------------------	------	-------------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	知	思	主	
一 学 期	4	(歴史的分野)第5章 開国と近代日本の歩み	1 新政府の成立 2 明治維新の三大改革 3 富国強兵と文明開化 4 近代的な国際関係	◎	○	○	<p>授業の概要</p> <p>歴史的分野では、近代、現代の日本の歴史を学びます。わが国の先人たちが、どのように苦勞して、今の豊かな日本をつくり上げたのかを様々な資料を参考にしながら、学習します。</p> <p>明治維新から、日清日露の戦争による独立の維持、第一次世界大戦後の大国としての動き、大東亜戦争に至るまでの道のり、そして敗戦にいたるまでの歴史を流れの中から把握します。</p> <p>公民的分野では、現代社会の問題点と自己のあり方について学びます。基本的人権や政治機構についての基本的事項を身に付けます。また、政治や経済、国際社会の基本的な学習から、身近なニュースと公民的分野の学習から学ぶ、対立と合意、効率と公正の考え方を学んだ学習まで、さまざまな資料を読み取りながら学習します。</p> <p>学習の到達目標</p> <p>・明治政府がどのような国をつくろうとしていたのか、政策から説明することができる。</p> <p>・大日本帝国憲法の制定や民権運動を通じて日本の民主主義の発展について理解できる。</p> <p>・日清、日露戦争勃発から第一次世界大戦を経て、日本が国際的な地位を確立していった経緯を理解できる。</p> <p>・大東亜戦争にいたる経緯を理解できる。</p> <p>・民主主義の意義について理解できる。</p> <p>・基本的人権の大切さが理解できる。</p> <p>・三権分立と日本の政治機構の基本的関係について理解できる。</p> <p>・経済活動の意義や市場経済の基本的な考え方について説明できる。</p> <p>・国家間の相互の主権の尊重と協力及び国際機構などについて理解できる。</p> <p>評価の観点</p> <p>知識・技能</p> <p>我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べとめる技能を身に付けている。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>社会的現象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養っている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>社会的現象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。</p> <p>評価方法</p> <p>学習の状況は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。</p> <p>備考</p>
		第3節 明治維新	5 国境と領土の確定 6 領土をめぐる問題の背景 7 自由民権運動の高まり 8 立憲制国家の成立	◎	○	○	
		第4節 近代産業の発展と近代文化の形成	1 欧米列強の侵略と条約改正 2 日清戦争 3 日露戦争 4 韓国と中国	○	◎	○	
		第6章 二度の世界大戦と日本	5 産業革命の進展 6 近代文化の形成 1 第一次世界大戦 2 ロシア革命	○	◎	○	
	5	第1節 第一次世界大戦と日本 第2節 大正デモクラシーの時代	3 国際協調の高まり 4 アジアの民族運動 1 大正デモクラシーと政党内閣の成立 2 広がる社会運動と男子普通選挙	○	○	◎	
		中間考査(5/14～5/15)		◎	◎		
	6	第3節 世界恐慌と日本の中国侵略	3 新しい文化と生活 1 世界恐慌とブロック経済 2 欧米の情勢とファシズム 3 昭和恐慌と政党内閣の危機	◎	○	○	
		第4節 第二次世界大戦と日本	4 満州事変と軍部の台頭 5 日中戦争と戦時体制 1 第二次世界大戦の始まり 2 太平洋戦争の開始	○	○	◎	
		第7章 現代の日本と私たち 第1節 戦後日本の出発	3 戦時下の人々 4 戦争の終結 1 占領下の日本 2 民主化と日本国憲法	○	○	◎	
		第2節 冷戦と日本の発展	1 冷戦の開始と植民地の解放 2 独立の回復と55年体制 3 緊張緩和と日本外交 4 日本の高度経済成長 5 マスメディアと現代の文化	◎	○	○	
7	期末考査3年(6/26～7/2) 期末考査2年(6/27～7/2)		◎	◎			
	第3節 新たな時代の日本と世界 (公民的分野)第1編 私たちと現代社会 第1節 私たちが生きる現代社会の特色	1 冷戦後の国際社会 2 冷戦後の日本 3 持続可能な社会に向けて 1 少子高齢化の社会で生きる私たち 2 情報化で変わる社会と私たち 3 グローバル化する世界で生きる私たち 4 持続可能な社会と私たち	○	○	◎		
	夏季休業日(7/20～8/25)						
	第2節 現代社会の文化と私たち	1 現代社会における文化 2 日本の伝統文化の特徴と多様性 3 世界のなかの日本の文化	○	○	◎		
9	第3節 現代社会の見方・考え方	1 きまりの意義 2 「対立」と「合意」3 効率と公正 4 きまりを守る責任とその評価	○	◎	○		
	第2編 私たちの生活と政治	1 政治と民主主義 2 法に基づく政治と憲法 3 日本国憲法と基本原則 4 日本国憲法と国民主権	◎	○	○		
	第2節 日本国憲法と基本的人権	1 人権思想の歩み 2 自由に生きる権利 3 等しく生きる権利 4 差別のない世界へ 5 人間らしい生活を営む権利 6 人権の保障を確実にするために 7 社会の変化と人権保障(1) 8 社会の変化と人権保障(2)	◎	◎	○		
	第3節 日本の平和主義	9 国際的な人権の保障 10 公共の福祉と国民の義務 1 日本国憲法の平和主義 2 日米安全保障条約と日本の国際貢献	◎	○	○		
10	中間考査(10/10～10/11)		◎	◎			
	第2章 国民主権と日本の政治	【チャレンジ公民】道路の拡張計画について考えよう 1 民主政治のしくみ 2 選挙の意義としくみ 3 国民と政治をつなぐ政党 4 政治参加と世論	○	◎	○		
	第1節 民主政治と政治参加 第2節 国の政治のしくみ	1 国会の地位としくみ 2 国会の仕事 3 内閣のしくみと議院内閣制 4 行政権の拡大と国民の生活 5 法を守る裁判所 6 裁判のしくみと人権の尊重 7 私たちの司法と裁判員制度	◎	○	◎		
	第3節 暮らしを支える地方自治	8 三権分立と政治参加 1 私たちの暮らしと地方自治 2 地方公共団体のしくみ 3 地方自治と国の関係 4 地方自治と私たち 【チャレンジ公民】一票の格差の問題を考えよう -ディベート-	○	◎	◎		
12	第3編 私たちの生活と経済 第1節 消費生活と経済のしくみ	1 経済のしくみ 2 経済活動の意義 3 私たちの消費生活 4 消費者の権利と自立を支える政府のはたらき 5 ものの流れと情報の流れ 6 市場のしくみと価格の決まり方	◎	○	○		
	期末考査3年(11/27～12/3) 期末考査2年(11/28～12/3)		◎	◎			
	第2節 生産の場としての企業	1 生産活動とそのしくみ 2 株式会社のしくみと企業の社会的責任 3 企業の競争と独占の問題 4 グローバル化する経済と現代の企業 5 企業活動と景気の変動 6 働く意味と労働者を支えるしくみ	○	○	◎		
	冬季休業日(12/21～1/7)						
三 学 期	1	第3節 金融のしくみとお金の価値	7 変化する雇用のかたち 8 女性の働く環境と高齢者雇用 1 金融のしくみ 2 日本銀行と金融政策 3 金融のグローバル化と為替相場	○	◎	○	
		第4節 財政と国民の福祉	1 財政のはたらき 2 国の収入を支える税と国債 3 社会保障のしくみ 4 少子高齢社会における福祉の充実と財源 5 環境保全の担い手としての政府 【チャレンジ公民】社会保障のあり方について考えよう	◎	○	○	
	2	第4編 私たちと国際社会 第1節 国家と国際社会	1 国際社会と持続可能性 2 国家と国際関係 3 日本の領土をめぐる問題 4 国際連合の目的とはたらき 5 グローバル化と地域統合 6 世界の様々な文化や宗教	◎	○	◎	
		学年末考査3年(2/21～2/28) 学年末考査2年(2/25～2/28)		◎	◎		
3	第2節 国際社会の課題と私たちの取り組み	1 現代の戦争と平和 2 世界の軍縮と日本の役割 3 日本の平和主義と国際貢献 4 発展途上国の現状と多様化する世界 5 限りある資源とエネルギー 6 地球規模の環境問題と国際協力 7 持続可能な社会をめざして	◎	○	◎		
	第5編 私たちの課題 -持続可能な社会をめざして-	【チャレンジ公民】地球温暖化に対する政策について考えよう 1 テーマ設定 2 資料収集と読み取り 3 考察と構想 4 まとめと評価	◎	○	◎		

令和6年度
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	地理歴史	科目	歴史総合	学年	4 年	類型	共通	単位数	2	単位
----	------	----	------	----	-----	----	----	-----	---	----

教科書名	高等学校 歴史総合	出版社名	第一学習社
------	-----------	------	-------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	知	思	主	
一 学 期	4	第1部 歴史の扉	①歴史と私たち ②歴史の特質と資料	○	○	◎	授業の概要 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり、解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指します。
		第2部 近現代の世界と日本 第1章 近代化と私たち	1 18世紀の東アジアの政治と国際秩序 2 18世紀の東アジアの経済と社会	◎	○	○	
		第1節 18世紀のアジアの繁栄	1 国際商業の覇権争いと大西洋三角貿易 2 農業社会から工業社会へー産業革命	◎	○	○	
		第2節 産業革命と市民革命	3 アメリカ独立革命 4 フランス革命	◎	◎	○	
	5	中間考査(5/14～5/17)		◎	◎	○	
		第3節 イギリスの繁栄と国民国家の拡大	1 イギリスの繁栄 2 後発国による「上かなの近代化」 3 ロシアの近代化と南下政策 4 アメリカ合衆国の膨張	◎	○	○	
	6	第4節 アジア諸国の変貌と日本の開国	1 オスマン帝国の衰退と西アジア 2 南アジアと東南アジアの植民地化 3 東アジアの動揺 4 東アジアの情勢と改革 5 明治初期日本の外交と東アジアの国際秩序 6 日本の立憲国家への道のり	◎	○	○	
期末考査(6/26～7/2)			◎	◎	○		
7	第5節 帝国主義の発展	1 帝国主義の時代 2 列強の世界政策 3 日清戦争と中国分割	◎	○	○		
	夏季休業日(7/20～8/25)						
二 学 期	9	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち	4 日露戦争とアジア 5 日本の工業化と社会運動の高揚 6 日本の帝国主義と東アジア	◎	◎	○	学習の到達目標 ・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と その中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸 課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、 諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に 調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ・近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色 などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在との つながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多 角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視 野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効 果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい 社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする 態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解 を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史 に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切 さについての自覚などを深める。
		第1節 第一次世界大戦と大衆社会	1 第一次世界大戦 2 ロシア革命とソ連の成立 3 ヴェルサイユ＝ワシントン体制 4 アジア諸国の独立運動 5 東アジアの民族運動と日本 6 アメリカの大衆社会	◎	○	○	
	10	中間考査5年(10/1～10/4)	7 大正デモクラシーと日本社会の変化	◎	○	○	
		中間考査4・6年(10/8～10/11)		◎	◎	○	
	11	第2節 経済危機と第二次世界大戦	1 世界恐慌 2 ファシズム・軍部の台頭 3 ファシズムの対外侵略と国際秩序の変化 4 日中戦争の開始と戦時体制下の日本 5 第二次世界大戦の開始 6 第二次世界大戦の終結	◎	◎	○	
		第3節 第二次世界大戦の戦後処理と新たな国際秩序の形成	1 国際連合と国際経済体制 2 冷戦の開始とアジアへの波及 3 敗戦国の戦後改革と日本国憲法の制定 4 平和条約と日本の独立回復	◎	○	○	
	12	期末考査(11/27～12/3)		◎	◎	○	
第3章 グローバル化と私たち		グローバル化への問い	◎	○	◎		
冬 季	第1節 冷戦と脱植民地化・第三世界の台頭	1 アジア諸国の独立と中東戦争 2 アフリカ諸国の独立と第三世界の台頭	◎	○	○		
	冬季休業日(12/21～1/7)						
三 学 期	1	3 核戦争の危機から核軍縮へ 4 西側諸国の多極化と日本の動向 5 日本の高度経済成長とアジアとの関係回復 6 米中の動揺とベトナム戦争	◎	○	○		
		第2節 国際秩序の変容と21世紀の世界	1 石油危機とイスラーム復興 2 東南アジア・東アジアの経済成長	◎	○	○	
	2	学年末考査4・5年(2/21～2/28)		◎	◎	○	
	3	3 冷戦の終結とソ連の解体 4 地域紛争の頻発とアメリカの動揺 5 グローバル化と地域統合の動き 6 情報通信技術の発展と環境問題への対応	◎	○	○		
現代な諸課題の形成と展望		「探究」活動に取り組んでみよう	◎	○	◎		

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	公民	科目	公共	学年	4 年	類型	共通	単位数	2	単位
----	----	----	----	----	-----	----	----	-----	---	----

教科書名	公共	出版社名	東京法令出版
------	----	------	--------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単 元	内 容	知	思	主		
一 学 期	4	第1編「公共の扉をひらくために」	「公共」の見取り図	○	○	◎	授 業 の 概 要 人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際関係などに関わる諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを旨とします。	
		第1章「公共的な空間をつくる私たち」	①社会のなかの私たち ②日本の文化と社会 ③青年期とは ④自己形成の課題 ⑤ライフ・キャリアの形成 ⑥社会の多様性 ⑦宗教と文化	○	◎	○		
		第2章「公共的な空間における人間としてのあり方・生き方」	①幸福とは ②自由とは ③正義とは ④公正とは	○	◎	○		
		第3章「公共的な空間における基本原理と日本国憲法」	①人間の尊厳と平等 ②民主政治と国民主権	◎	○	○		
	5	中間考査(5/14～5/17)			◎	○		
			③消極的自由と公共の福祉 ④積極的自由と義務		◎	○		
			⑤法の支配と人権保障 ⑥平和主義		◎	◎		○
6	第2編「よりよい社会の形成に参画するために」	「政治」の見取り図 ①法の機能と限界 ②国会の運営と権限		◎	○	◎		
	第1章「日本の政治機構と政治参加」	③内閣と行政の民主化 ④世界の政治体制		◎	○			
		⑤裁判所と人権保障 ⑥私たちと裁判		◎	○			
7	期末考査(6/26～7/2)			◎	○			
		⑦地方自治のしくみ ⑧選挙のしくみと課題		◎	○			
		⑨政党政治 ⑩国民と政治参加		◎	◎	○		
夏 季	8	夏季休業日(7/20～8/25)					・考察・選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解し、諸資料から、必要な情報を調べまとめることができる。 ・現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、構想したことを議論したりすることができる。 ・各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについて自覚した上で、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする事ができる。	
	二 学 期	9	第2章「経済のしくみ」	「経済」の見取り図 ①経済活動と私たちの生活 ②市場のしくみ ③市場の失敗 ④現代の企業 ⑤国民所得 ⑥景気変動と物価の動き ⑦財政の役割 ⑧財政の課題 ⑨金融のしくみと働き	◎	○	◎	評 価 の 観 点 知識・技能 考察・選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解している。また、諸資料から、必要な情報を調べまとめている。
中間考査5年(10/1～10/4)			⑩中央銀行と金融の自由化	◎	○			
中間考査4・6年(10/8～10/11)				◎	◎	○		
第3章「変化する日本経済」			①戦後復興から高度経済成長へ ②安定成長からバブル経済へ ③バブル後の日本経済 ④日本の中小企業 ⑤日本の農業問題 ⑥公害の防止と環境保全 ⑦エネルギーと循環型社会	◎	○			
11		第4章「豊かな生活の実現」	①私たちの生活と契約 ②消費者主権 ③労働者の権利 ④現代の雇用・労働問題		◎	◎	○	
	期末考査(11/27～12/3)			◎	○			
	12		⑤社会保障の役割 ⑥社会保障制度の課題		◎	○	◎	
第5章「国際政治のしくみと動向」		「国際」の見取り図 ①国家主権と国際法 ②人権保障の広がり		◎	○			
冬 季	12	冬季休業日(12/21～1/7)						
	三 学 期	1		③国際連合の役割と課題 ④第二次世界大戦後の国際社会 ⑤冷戦終結後の国際社会 ⑥人種・民族・難民問題 ⑦核兵器の廃絶と国際平和 ⑧日本の安全保障の現状	◎	○		評 価 方 法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、主に「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評価します。
第6章「国際経済のしくみと動向」			①貿易と国際分業 ②外国為替のしくみと国際収支 ③戦後国際経済の枠組みと変化 ④グローバル化する経済		◎	◎	○	
第7章「国際社会の現状と課題」			①地域統合の進展 ②南北問題		◎	○		
2		学年末考査4・5年(2/21～2/28)			◎	○		
			③新興市場国 ④地球規模の諸課題 ⑤地球環境問題 ⑥日本の役割		◎	◎	○	
3		第3編「持続可能な社会をつくるために」	①民主主義を考えよう ②日本の格差問題 ③科学技術の発展 ④外国人との共生		◎	◎	○	
							備 考	

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	地理歴史	科目	地理総合	学年	5 年	類型	文科系	単位数	2 単位
----	------	----	------	----	-----	----	-----	-----	------

教科書名	高等学校 新地理総合 高等地図帳	出版社名	帝国書院 二宮書店
------	---------------------	------	--------------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単元	内容	知	思	主		
一 学 期	4	第1部 地図でとらえる現代世界	1 地球上の位置と時差	○	○	◎	<p style="text-align: center;">授 業 の 概 要</p> 社会的現象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり、解決したりする活動を通して広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指します。	
		第1章 地図と地理情報システム	2 地図の役割と種類	○	◎	○		
		第2章 結びつきを深める現代世界	1 現代世界の国家と領域	◎	○	○		
		2 グローバル化する世界	◎	◎	○			
	5	中間考査(5/14～5/17)			◎	◎		○
		第2部 国際理解と国際協力	序説 生活文化の多様性と国際理解	○	○	◎		
	6	第1章 生活文化の多様性と国際理解	1 世界の地形と人々の生活	◎	◎	○		
		2 世界の気候と人々の生活	◎	◎	○			
		期末考査(6/26～7/2)		◎	◎	○		
	7		3 世界の言語・宗教と人々の生活文化	◎	○	◎		<p style="text-align: center;">学 習 の 到 達 目 標</p> ・地理に関わる諸事情に関して、世界の生活文化の多様性、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。 ・地理に関わる事象の意味や特色、相互の関連や概念などを活用して多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明する力を身に付ける。 ・地理に関わる諸事象の課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察を通して、日本国民としての自覚や世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについて自覚などを深めようとする。
◎			○	◎				
二 学 期	8	夏季休業日(7/20～8/25)						
		4 歴史的背景と人々の生活	◎	○	◎			
	9		5 世界の産業と人々の生活	◎	○	◎	<p style="text-align: center;">評 価 の 観 点</p> <p style="text-align: center;">知 識 ・ 技 能</p> 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や地域的な特色、地球的課題への取組などに関して理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	
			中間考査5年(10/1～10/4)	◎	○	◎		
			中間考査4・6年(10/8～10/11)	◎	◎	○		
	10	第2章 地球的課題と国際協力	1 複雑に絡み合う地球的課題 2 地球環境問題	◎	○	◎		
		3 資源エネルギー問題	◎	◎	○			
		4 人口問題	◎	○	◎			
		5 食糧問題	○	○	◎			
	11		6 都市居住問題	◎	○	◎	<p style="text-align: center;">思 考 ・ 判 断 ・ 表 現</p> 地理に関わる事象の意味や特色、相互の関連や概念などを多角的に考察し、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察・構想したことを効果的に説明したりする力を身に付けている。	
◎			◎	○				
12	期末考査(11/27～12/3)		◎	◎	○	<p style="text-align: center;">主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度</p> 地理に関する諸事象について、国家及び社会の形成者として、課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察を通して、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについて自覚などを深めようとしている。		
	第3部 持続可能な地域づくりと私たち	1 日本の自然環境	◎	○	◎			
三 学 期	1	冬季休業日(12/21～1/7)						
		2 地震・津波と防災 3 火山災害と防災	◎	◎	○	<p style="text-align: center;">評 価 方 法</p> 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、主に「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「課題プリント(小テスト等)」、「提出物」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評価します。		
	4 気象災害と防災	◎	◎	○				
	5 自然災害への備え	○	◎	◎				
	2	学年末考査4・5年(2/21～2/28)		◎	◎		○	
		◎	◎	○				
	3	第2章 生活圏の調査と地域の展望	1 生活圏の調査と地域の展望	◎	○		◎	<p style="text-align: center;">備 考</p>
		◎	○	◎				

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	地理歴史	科目	地理総合	学年	5 年	類型	理科系	単位数	2	単位
----	------	----	------	----	-----	----	-----	-----	---	----

教科書名	高等学校 新地理総合 高等地図帳	出版社名	帝国書院 二宮書店
------	---------------------	------	--------------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単元	内容	知	思	主		
一 学 期	4	第1部 地図でとらえる現代世界	1 地球上の位置と時差	○	○	◎	授業の概要 社会的現象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり、解決したりする活動を通して広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指します。 学習の到達目標 ・地理に関わる諸事情に関して、世界の生活文化の多様性、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。 ・地理に関わる事象の意味や特色、相互の関連や概念などを活用して多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明する力を身に付ける。 ・地理に関わる諸事象の課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察を通して、日本国民としての自覚や世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについて自覚などを深めようとする。	
		第1章 地図と地理情報システム	2 地図の役割と種類	○	◎	○		
		第2章 結びつきを深める現代世界	1 現代世界の国家と領域	◎	○	○		
		2 グローバル化する世界	◎	◎	○			
	5	中間考査(5/14～5/17)			◎	◎		○
		第2部 国際理解と国際協力	序説 生活文化の多様性と国際理解	○	○	◎		
	6	第1章 生活文化の多様性と国際理解	1 世界の地形と人々の生活	◎	◎	○		
			2 世界の気候と人々の生活	◎	◎	○		
		期末考査(6/26～7/2)		◎	◎	○		
	7		3 世界の言語・宗教と人々の生活文化	◎	○	◎		
			◎	○	◎			
夏 季	8	夏季休業日(7/20～8/25)						
	9		4 歴史的背景と人々の生活	◎	○	◎		
		5 世界の産業と人々の生活	◎	○	◎			
中間考査5年(10/1～10/4)			◎	○	◎			
中間考査4・6年(10/8～10/11)			◎	◎	○			
二 学 期	10	第2章 地球的課題と国際協力	1 複雑に絡み合う地球的課題 2 地球環境問題	◎	○	◎		
			3 資源エネルギー問題	◎	◎	○		
	11		4 人口問題	◎	○	◎		
			5 食糧問題	○	○	◎		
			6 都市居住問題	◎	○	◎		
		期末考査(11/27～12/3)		◎	◎	○		
12	第3部 持続可能な地域づくりと私たち	1 日本の自然環境	◎	○	◎			
	第1章 自然災害と防災		◎	○	◎			
冬 季		冬季休業日(12/21～1/7)						
三 学 期	1		2 地震・津波と防災 3 火山災害と防災	◎	◎	○		
			4 気象災害と防災	◎	◎	○		
			5 自然災害への備え	◎	◎	○		
	2	学年末考査4・5年(2/21～2/28)		◎	◎	○		
		第2章 生活圏の調査と地域の展望	1 生活圏の調査と地域の展望	◎	◎	◎		
3			◎	◎	◎			

シ ラ バ ス

令和6年度

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	地理歴史	科目	日本史探究	学年	5 年	類型	文科系	単位数	2 単位
----	------	----	-------	----	-----	----	-----	-----	------

教科書名	詳説日本史	出版社名	山川出版社
------	-------	------	-------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	知	思	主	
一 学 期	4	第1章 日本文化のあけぼの	1 文化の始まり 2 農耕社会の成立	◎	◎	◎	授 業 の 概 要 「歴史総合」で学んだことを基に、我が国の歴史の展開について総合的な理解を深め、各時代の展開に関わる概念等を活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し、地域や日本、世界の歴史の関わりをふまえ、現代の日本の諸課題とその展望を探究する力を養うことを目指す科目です。 学 習 の 到 達 目 標 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
		第2章 古墳とヤマト政権	1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷	◎	◎	◎	
	5	中間考査(5/14～5/17)		◎	◎	◎	
	6	第3章 律令国家の形成	1 律令国家への道 2 平城京の時代 3 律令国家の文化	◎	◎	◎	
		7	期末考査(6/26～7/2)	4 律令国家の変容	◎	◎	
	8	夏季休業日(7/20～8/25)					
	二 学 期	9	第4章 貴族政治の展開	1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士	◎	◎	
第5章 院政と武士の躍進			1 院政のはじまり 2 院政と平氏政権	◎	◎	◎	
10		中間考査5年(10/1～10/4) 中間考査4・6年(10/8～10/11)		◎	◎	◎	
11		第6章 武家政権の成立	1 鎌倉幕府の成立 2 武士の社会 3 モンゴル襲来と幕府の衰退 4 鎌倉文化	◎	◎	◎	
		12	期末考査(11/27～12/3)		◎	◎	◎
1		第7章 武家社会の成長	1 室町幕府の成立	◎	◎	◎	
1		冬季休業日(12/21～1/7)					
三 学 期	1		2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化	◎	◎	◎	評 価 方 法 学習の状況は、上記の「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点に基づき学習内容のまとまりごとに評価します。具体的には、主に「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト」、「課題等提出状況」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階の評定にて総括します。
				2	学年末考査4・5年(2/21～2/28)	◎	
	3		4 戦国大名の登場	◎	◎	◎	
				◎	◎	◎	

シ ラ バ ス

令和6年度

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	地理歴史	科目	世界史探究	学年	5 年	類型	文科系	単位数	2 単位
----	------	----	-------	----	-----	----	-----	-----	------

教科書名	詳説世界史	出版社名	山川出版社
------	-------	------	-------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	知	思	主	
一 学 期	4	第1章 文明の成立と古代文明の特質	1 文明の誕生	◎	○	○	授 業 の 概 要 「歴史総合」の学習で身に付けた資質・能力を基に、世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、事象の意味や意義、特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、歴史的経緯を踏まえて、地球世界の課題を探究する科目です。
			2 古代オリエント文明とその周辺	○	◎	○	
			3 南アジアの古代文明 4 中国の古代文明	○	◎	○	
			5 南北アメリカ文明	◎	○	○	
	5	中間考査(5/14～5/17)		◎	○	○	
	6	第2章 中央ユーラシアと東アジア世界	1 中央ユーラシア——草原とオアシスの世界	◎	○	○	
			2 秦・漢帝国 3 中国の動乱と変容	○	◎	○	
4 東アジア文化圏の形成			◎	○	○		
7	第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開	1 仏教の成立と南アジアの統一国家	◎	○	○		
		2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着	○	◎	○		
二 学 期	7	第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成	3 東南アジア世界の形成と展開	◎	○	○	学 習 の 到 達 目 標 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを旨とする。
			1 イラン諸国家の興亡とイラン文明	◎	○	○	
	8	夏季休業日(7/20～8/25)					
	9	第5章 イスラム教の成立とヨーロッパ世界の形成	2 ギリシア人の都市国家	○	◎	○	評 価 の 観 点 知識・技能 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。
			3 ローマと地中海支配 4 キリスト教の成立と発展	○	◎	○	
			1 アラブの大征服とイスラム政権の成立	◎	○	○	
			2 ヨーロッパ世界の形成	○	◎	○	
1 イスラム教の諸地域への伝播			◎	○	○		
10	中間考査5年(10/1～10/4)		◎	○			
11	第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開	2 西アジアの動向	◎	○	○	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養っている。	
		1 西ヨーロッパの封建社会とその展開	◎	○	○		
		2 東ヨーロッパ世界の展開	○	◎	○		
		3 西ヨーロッパ世界の変容	○	◎	○		
12	第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国	4 西ヨーロッパの中世文化	◎	○	○		
		1 アジア諸地域の自立化と宋	◎	○	○		
		2 モンゴルの大帝国	◎	○	○		
12	期末考査(11/27～12/3)		◎	○			
冬 季	第9章 大交易・大交流の時代	1 アジア交易世界の興隆	◎	○	○	主 体的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めている。	
		2 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容	○	◎	○		
		12/21～1/7					
三 学 期	1	第10章 アジアの諸帝国の繁栄	1 オスマン帝国とサファヴィー朝	◎	○	○	評 価 方 法 学習の状況は、上記の「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点に基づき学習内容のまとまりごとに評価します。具体的には、主に「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト」、「課題等提出状況」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階の評定にて総括します。
			2 ムガル帝国の興隆	◎	○	○	
			3 清代の中国と隣接諸地域	○	◎	○	
	2	第11章 近世ヨーロッパ世界の動向	1 ルネサンス	○	◎	○	
			2 宗教改革	○	◎	○	
3	学年末考査4・5年(2/21～2/28)	3 主権国家体制の成立	○	◎	○		
			◎	○			
		4 オランダ・イギリス・フランスの台頭	◎	○	○		
3		5 北欧・東欧の動向	◎	○	○		
		6 科学革命と啓蒙思想	◎	○	○		
							備 考

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	公民	科目	倫理	学年	5 年	類型	文科系	単位数	2 単位
----	----	----	----	----	-----	----	-----	-----	------

教科書名	倫理	出版社名	東京書籍
------	----	------	------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	知	思	主	
一 学 期	4	第1章 青年期の課題と自己形成	1節 青年期の意義	○	◎	◎	授 業 の 概 要 青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について、先人の思想を参考に理解を深めます。日本の思想、西洋の思想をもとに、生きる主体としての自己の確立を促します。それとともに、民主主義社会における諸課題を理解し、どのように対処していけば良いのかを考えさせ、良識ある公民として必要な能力と態度を養います。
			2節 青年期の課題と生き方	○	◎	◎	
		第2章 人間としての自覚	1節 人間とは何か	○	○	◎	
			中間考査(5/14～5/17)	◎	◎	○	
	5	中間考査(5/14～5/17)	2節 ギリシャの思想	◎	○	○	
			3節 キリスト教	◎	○	○	
			4節 イスラーム	◎	○	○	
			5節 仏教	◎	○	○	
			6節 中国の思想	◎	◎	○	
			期末考査(6/26～7/2)	◎	◎	○	
	6	期末考査(6/26～7/2)	7節 芸術と人間	○	○	◎	
			◎	○	◎		
夏 季	8	夏季休業日(7/20～8/25)					
	9	第3章 国際社会に生きる日本人の自覚	1節 日本人の精神風土	○	◎	◎	
			2節 仏教と日本人の思想形成	◎	◎	○	
			3節 儒教と日本人の思想形成	◎	◎	○	
			◎	○	○		
			◎	◎	○		
			◎	◎	○		
	10	第4章 現代を生きる人間の倫理	4節 国学の思想	◎	◎	○	
			5節 庶民の思想	◎	◎	○	
			6節 西洋思想と日本人の近代化	◎	◎	○	
			7節 国際社会に生きる日本人の自覚	○	◎	◎	
1節 人間の尊厳の根拠を求めて			◎	◎	○		
◎			◎	○			
11	第4章 現代を生きる人間の倫理	2節 民主社会と自由を求めて	◎	◎	○		
		◎	○	◎			
12	期末考査(11/27～12/3)		◎	◎	○		
			◎	○	◎		
二 学 期	1	冬季休業日(12/21～1/7)					
	2	第5章 現代の課題を考える	3節 社会変革の倫理を求めて	◎	○	◎	
			4節 新たな人間像を求めて	◎	○	◎	
			5節 自然や科学技術と人間とのかかわり	◎	○	◎	
			6節 民主社会の成熟のために	○	◎	◎	
			◎	◎	○		
			◎	◎	○		
	3	学年末考査4・5年(2/21～2/28)		◎	◎	○	
				◎	◎	○	
	3 学 期	1	第5章 現代の課題を考える	1節 生命 2節 家族	○	◎	◎
				3節 地域社会 4節 情報社会	○	◎	◎
5節 文化と宗教 6節 環境 7節 国際平和と人類の福祉				○	◎	◎	
◎				◎	○		
◎				◎	○		
◎				◎	○		

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	地理歴史	科目	地理探究	学年	6 年	類型	理科系	単位数	4 単位
----	------	----	------	----	-----	----	-----	-----	------

教科書名	新詳 地理探究 高等地図帳	出版社名	帝国書院 二宮書店
------	------------------	------	--------------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単元	内容	知	思	主		
一 学 期	4	第1部 現代世界の系統地理的考察	序説 地球環境と人間 1節 地形	◎	◎	○	<p style="text-align: center;">授 業 の 概 要</p> 地理総合の学びをもとに、社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体系に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成します。	
		第1章 自然環境	2節 気候 3節 日本の自然環境	◎	◎	○		
		第2章 資源と産業	4節 地球環境問題 1節 農林水産業 2節 食糧問題	◎	◎	◎		
			3節 エネルギー・鉱産資源 4節 資源・エネルギー問題	◎	◎	◎		
			5節 工業 6節 第3次産業	◎	◎	○		
	5	中間考査(5/14～5/17)		◎	◎	○		
	6	第3章 交通・通信と観光、貿易	1節 交通・通信 2節 観光 3節 貿易と経済圏	◎	◎	◎		
		第4章 人口、村落・都市	1節 人口 2節 人口問題	◎	◎	◎		
			3節 村落と都市 4節 都市・居住問題	◎	◎	◎		
	7	第5章 生活文化、民族・宗教	1節 衣食住 2節 民族・宗教と民族問題	◎	◎	◎		
			3節 国家の領域と領土問題	◎	◎	○		
		期末考査(6/26～7/2)		◎	◎	○		
二 学 期	8	第2部 現代世界の地誌的考察	1節 地域区分	◎	◎	○	<p style="text-align: center;">学 習 の 到 達 目 標</p> ・地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。 ・地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	
		第1章 現代世界の地域区分	序説 地域の考察方法	○	◎	○		
	9	夏季休業日(7/20～8/25)						
		第2章 現代世界の諸地域	1節 中国	○	◎	○		
			2節 韓国	○	◎	○		
			3節 ASEAN諸国	○	◎	○		
			4節 インド	○	◎	○		
		5節 西アジアと中央アジア	○	◎	○			
	10	中間考査5年(10/1～10/4)		○	◎	○		
		中間考査4・6年(10/8～10/11)		◎	◎	○		
		6節 北アフリカとサハラ以南アフリカ	○	◎	○			
		7節 EU諸国 8節 ロシア	○	◎	○			
9節 アメリカ合衆国		○	◎	○				
10節 ラテンアメリカ		○	◎	○				
11	第3部 現代世界におけるこれからの日本の国土像	11節 オーストラリアとニュージーランド	○	◎	○			
	第1章 持続可能な国土像の探究	1節 将来の国土の在り方 2節 持続可能な日本の国土像の探究	○	◎	○			
	期末考査(11/27～12/3)		◎	◎	○			
12		演習	◎	◎	○			
			◎	◎	○			
	冬季休業日(12/21～1/7)							
三 学 期	1	家庭学習		◎	◎	○	<p style="text-align: center;">評 価 方 法</p> 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、主に「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「課題プリント(小テスト等)」、「提出物(ノートや問題集)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評価します。	
				◎	◎	○		
				◎	◎	○		
	2			◎	◎	○		
				◎	◎	○		
				◎	◎	○		
3			◎	◎	○			
			◎	◎	○			
			◎	◎	○			

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	地理歴史	科目	日本史探究	学年	6 年	類型	文科系	単位数	4 単位
----	------	----	-------	----	-----	----	-----	-----	------

教科書名	詳説日本史	出版社名	山川出版社
------	-------	------	-------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等		
		単元	内容	知	思	主			
一 学 期	4	第8章 近世の幕開け	1 織豊政権 2 桃山文化	◎	◎	○	授業の概要 「歴史総合」で学んだことを基に、我が国の歴史の展開について総合的な理解を深め、各時代の展開に関わる概念等を活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し、地域や日本、世界の歴史の関わりをふまえ、現代の日本の諸課題とその展望を探究する力を養うことを目指す科目です。		
		第9章 幕藩体制の成立と展開	1 幕藩体制の成立 2 幕藩体制の構造 3 幕政の安定 4 経済の発展 5 元禄文化	◎	◎	○			
		第10章 幕藩体制の動揺	1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化	◎	◎	○			
		中間考査(5/14～5/17)		◎	◎	○			
	6	第11章 近世から近代へ	3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化 1 開国と幕末の動乱 2 幕府の滅亡と新政府の発足	◎	◎	○			
		第12章 近代国家の成立	1 明治維新と富国強兵	◎	○	○			
		期末考査(6/26～7/2)		◎	◎	○			
	7	第13章 近代国家の展開	2 立憲国家の成立 1 日清・日露戦争と国際関係	◎	○	○		学習の到達目標 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。	
		夏季休業日(7/20～8/25)							
	二 学 期	9	第14章 近代の産業と生活	2 第一次世界大戦と日本 3 ワシントン体制 1 近代産業の発展 2 近代文化の発達 3 市民生活の変容と大衆文化	◎	◎		○	評価の観点 知識・技能 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。
			第15章 恐慌と第二次世界大戦	1 恐慌の時代 2 軍部の台頭 3 第二次世界大戦	◎	◎		○	
			第16章 占領下の日本	1 占領と改革	◎	◎		◎	
中間考査5年(10/1～10/4)				◎	○	○			
10		中間考査4・6年(10/8～10/11)		◎	◎	○			
		第17章 高度成長の時代	2 冷戦の開始と講話 1 55年体制 2 経済復興から高度経済成長へ	◎	◎	○			
		第18章 激動する世界と日本	1 経済大国への道 2 冷戦の終結と日本社会の変容	◎	○	○			
11		現代日本の課題の探求	様々な災害と日本	○	○	◎			
		期末考査(11/27～12/3)		◎	◎	○			
12			問題演習	◎	◎	○	主体的に学習に取り組む態度 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めている。		
		冬季休業日(12/21～1/7)							
三 学 期		1		◎	◎		評価方法 学習の状況は、上記の「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点に基づき学習内容のまとまりごとに評価します。具体的には、主に「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト」、「課題等提出状況」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階の評定にて総括します。		
			◎	◎					
			◎	◎					
	2	家庭学習		◎	◎				
				◎	◎				
				◎	◎				
3			◎	◎	備考 5年次から継続して学習します。				

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	地理歴史	科目	世界史探究	学年	6 年	類型	文科系	単位数	4 単位
----	------	----	-------	----	-----	----	-----	-----	------

教科書名	詳説世界史	出版社名	山川出版社
------	-------	------	-------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	知	思	主	
一 学 期	4	第12章 産業革命と環大西洋革命	1 産業革命 2 アメリカ合衆国の独立と発展 3 フランス革命とナポレオンの支配 4 中南米諸国の独立	○	◎	○	授 業 の 概 要 「歴史総合」の学習で身に付けた資質・能力を基に、世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、事象の意味や意義、特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、歴史的経緯を踏まえて、地球世界の課題を探究する科目です。 学 習 の 到 達 目 標 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを旨とする。
		第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成	1 ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動 2 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成	○	◎	○	
	5	中間考査(5/14～5/17)		◎	◎	○	
	6	第14章 アジア諸地域の動揺	3 アメリカ合衆国の発展 4 19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄 1 西アジア地域の変容 2 南アジア・東南アジアの植民地化 3 東アジアの激動	◎	○	○	
		第15章 帝国主義とアジアの民族運動	1 第2次産業革命と帝国主義 2 列強の世界分割と列強体制の二分化	○	◎	○	
	7	期末考査(6/26～7/2)		◎	◎	○	
	夏 季	8	夏季休業日(7/20～8/25)				
二 学 期		9	第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	3 アジア・アフリカ地域の民族運動 1 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊 2 第二次世界大戦 3 新しい国際秩序の形成	◎	○	○
	第18章 冷戦と第三世界の台頭		1 冷戦の展開	◎	◎	○	
	中間考査5年(10/1～10/4)			◎	◎	○	
	10	中間考査4・6年(10/8～10/11)		◎	◎	○	
	11	第19章 冷戦の終結と今日の世界	2 第三世界の台頭とキューバ危機 3 冷戦体制の動揺 1 産業構造の変容 2 冷戦の終結 3 今日の世界 4 現代文明の諸相 地球世界の課題の探究	○	◎	○	
12		期末考査(11/27～12/3)		◎	◎	○	
冬 季	12	問題演習		◎	◎		
	1	冬季休業日(12/21～1/7)		◎	◎		
三 学 期	1			◎	◎	評 価 方 法 学習の状況は、上記の「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点に基づき学習内容のまとまりごとに評価します。具体的には、主に「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト」、「課題等提出状況」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階の評定にて総括します。	
				◎	◎		
				◎	◎		
	2	家庭学習		◎	◎		
	3			◎	◎		
						備 考	

令和6年度
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	公民	科目	政治・経済	学年	6 年	類型	文科系	単位数	2 単位
----	----	----	-------	----	-----	----	-----	-----	------

教科書名	詳述 政治・経済	出版社名	実教出版
------	----------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	知	思	主	
一 学 期	4	第一部 現代日本における政治・経済の諸課題	1 政治と法 2 民主政治と人権保障の発展 3 国民主権と民主政治の発展	○	◎	○	授 業 の 概 要 民主主義社会における諸課題を理解し、どのように対処していけば良いのかを考え、良識ある公民として必要な能力と態度を養います。
		第1編 現代日本の政治	4 世界の政治体制	○	◎	○	
		第1章 民主政治の基本原則	1 日本国憲法の成立 2 平和主義	○	◎	○	
		第2章 日本国憲法の基本的性格	3 基本的人権の尊重 4 人権の広がり	○	◎	○	
	5	中間考査(5/14～5/17)		◎	◎	◎	
		第3章 日本の政治機構	1 立法 2 行政 2 行政 3 司法 4 地方自治	○	◎	○	
		第4章 現代日本の政治	1 戦後政治の歩み	○	◎	○	
6	期末考査(6/26～7/2)		◎	◎	◎	学 習 の 到 達 目 標 広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。	
	7		2 選挙制度 3 政治参加と世論	○	◎	○	
				○	◎	○	
夏 季	8	夏季休業日(7/20～8/25)					
二 学 期	9	第2編 現代日本の経済	1 経済活動の意義 2 経済社会の形成と変容	○	◎	○	評 価 の 観 点 知識・技能 考察・選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解している。また、諸資料から、必要な情報を調べまとめている。
		第1章 現代社会の変容	1 市場機構	○	◎	○	
		第2章 現代経済のしくみ	2 現代の企業 3 国民所得と経済成長 4 金融のしくみ 5 財政のしくみ	○	◎	○	
		第3章 現代経済と福祉の向上	1 経済の停滞と再生 2 日本の中小企業と農業	○	◎	○	
	10	中間考査5年(10/1～10/4)	3 国民のくらし 4 環境保全と公害防止	○	◎	○	
		中間考査4・6年(10/8～10/11)		◎	◎	◎	
	11	第3編 現代日本における諸課題の探究	5 労使関係と労働条件の改善 6 社会保障の役割	○	◎	○	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断し、構想したことを議論している。
		第2部 グローバル化する国際社会の諸課題	1 地域社会の自立と政府 2 防災と安全・安心な社会の実現 3 現代国際政治の動向 4 核兵器と軍縮	○	◎	◎	
		第1章 現代の国際政治	1 国際政治の特質と国際法 2 国際連合と国際協力 5 国際紛争と難民 6 国際政治と日本	○	◎	○	
		第2章 現代の国際経済	1 商品・資本の流れと国際収支 2 国際経済体制の変化	○	◎	○	
	12	期末考査(11/27～12/3)		◎	◎	◎	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度 よりよい社会の実現のために、現代の政治や経済について多面的・多角的に考察し、考えたことを社会生活に生かそうとしている。
		冬季休業日(12/21～1/7)					
			3 グローバル化と世界金融 4 地域経済統合と新興国の台頭 5 地球環境とエネルギー 6 経済協力と人間開発の課題	○	◎	○	
冬 季	1	第3章 国際社会の諸課題の探究	1 紛争の解決に向けた国際社会の取組など 演習	○	◎	◎	評 価 方 法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、主に「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評価します。
三 学 期	2	家庭学習		○	○	○	備 考
				○	○	○	
	3			○	○	○	